

## 平成27年度第1回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

生産者、流通業者、消費者等野菜にかかわる関係者が一堂に会する平成27年度第1回野菜需給協議会が開催され（7月31日（金）13:30～15:30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「平成27年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」等を確認しました。概要は下記のとおりです。

## 記

## 1 平成27年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成27年7月22日開催）において、とりまとめられた「平成27年産夏秋野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、質疑が行われた（見通しの詳細については、別紙のとおり）。

## 【価格見通しのポイント】

- 夏秋キャベツは、一部地域の干ばつ等の影響による出荷の減少から、8月は前年を上回る見込み。9月以降は順調な出荷が見込まれ、10月は前年並みとなるものの、9月は不安定な天候や加工・業務用需要も堅調で高かった前年を下回る見込み。
- 夏だいこんは、干ばつ等の影響が懸念されるものの、期間を通じ安定した出荷が見込まれ、8月から9月の期間で高かった前年並みの見込み。
- たまねぎは、一部産地での小玉傾向の影響や産地の切り替え時期などによる出荷の減少から、8月は前年を上回ることが見込まれる。9月以降は本格的な出荷を迎え、9月は主産地が順調で前年並みとなり、10月は安値だった前年を上回る見込み。
- 秋にんじんは、8月は、干ばつの影響による出荷の谷間となる可能性があり、安値だった前年を上回る見込み。9月以降は順調な出荷が見込まれることから、9月は前年並みとなり、10月は安値だった前年を上回る見込み。
- 夏はくさいは、期間を通じ生育も順調で安定した出荷が見込まれることから、不安定な天候で肥大不足等の影響から高かった前年を下回る見込み。
- 夏秋レタスは、8月は高温等による病害等の発生があり、入荷量が少なく高かった前年並みの見込み。9月は長雨の影響で高かった前年を下回り、10月は安値だった前年を上回る見込み。

## 2 野菜の消費拡大活動等について

- 主婦連合会、全国地域婦人団体連絡協議会、公益社団法人日本栄養士会、NPO法人野菜と文化のフォーラム、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 協議会の取組として、野菜のことをもっと知ってもらうために、「やさいの日」（8月31日）を記念した「野菜シンポジウム」の開催内容についての説明があった。

## 3 フードチェーン食育推進活動の実施概要等について

- 一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会より、農林水産物の生産・加工・流通などの体験機会を通じて、食の恩恵や大切さを体感してもらうことを目的として、平成26年7月から27年2月まで、全国9か所（25回）で開催した、フードチェーン食育推進活動及び参加者への効果測定のためのアンケート調査結果の概要について説明があった。

なお、開催内容については、近日中に一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会のホームページ (<http://www.5aday.net/>) で公開される予定です。

## 4 その他

会員から以下のような発言があった。

- スーパーでは、ズッキーニやパプリカなどを若い消費者がよく購入しており、独身者などもコンビニやスーパーでカット野菜を購入する者が増えている。
- 野菜の消費拡大は、1日に必要な量（350g）をパックにして陳列販売する方法も有効である。
- ドライバー不足が野菜の流通や取引に与える影響については、生産者や中間事業者の輸送費負担、産地の出荷市場の絞り込みなどの形で現れつつある。
- 若い人や多忙な人には、複数のカット食材をパック詰めした商品が好評である。
- インターネットを通じた、生産者側からの美味しい調理法を伝える取り組みや商品への生産者のレシピの添付が有効である。

【参 考】 配付資料等については、ホームページで公表します。

(問い合わせ先)

独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、鶴狩、濱名、小林

電話番号：03-3583-9449

# 平成 27 年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて

## 1 夏秋キャベツ（7～10月）

### 生産地の動向等

- 主な産地：群馬、長野、北海道

  - 作付面積は、群馬及び長野は99%、北海道は100%。
  - 生育状況は、群馬は、播種作業は2月上旬より順調に開始され、現在も順調に生育している。長野は、5月中旬までは干ばつにより小玉傾向であったが、6月以降の降雨で回復し、現在は順調に生育している。北海道は、地区によっては干ばつの影響で遅れがでているが、全体的には順調に生育している。
  - 出荷開始は、群馬は高冷地6月上旬、長野は6月中旬、北海道は7月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、降水量及び日照時間は、ほぼ平年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

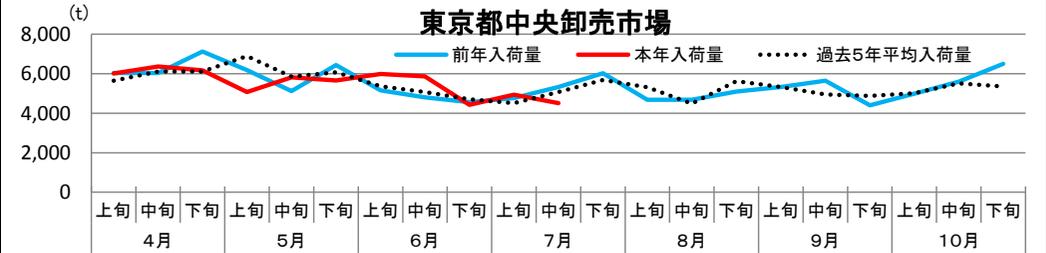
### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し

  - 出荷量は、群馬県において干ばつの影響などから8月は前年を下回ると見込まれ、9月以降は、安定した出荷となって前年並みの見込み。
- 需給・価格見通し

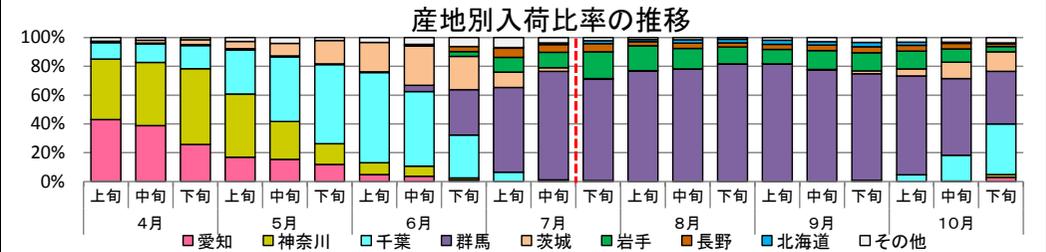
  - 価格は、8月は干ばつ等の影響から入荷量が減少して前年を上回り、9月は低温、長雨等の影響に加え、加工・業務用の需要も堅調で高値となった前年を下回り、10月は天候が回復し順調な出荷となり平年を下回った前年並みの見込み。
  - 加工・業務用は、カット野菜の需要が強く、事業者にとって必要量を契約できない産地もある。新規の加工業者は契約しづらいことや、カット野菜の生鮮小売りへの供給確保の影響から、原材料の市場調達が進むことも考えられ、その場合には市場価格が上昇する可能性もある。

### 入荷量の推移等

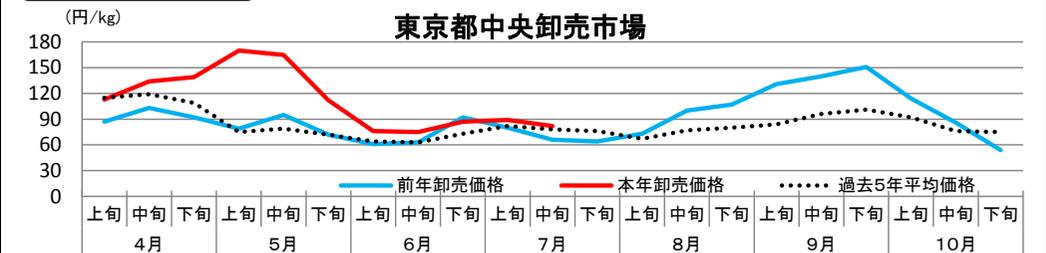


#### 《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↘	→	→



### 価格の推移等



#### 《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↗	↘	→

## 2 夏だいこん（7～9月）

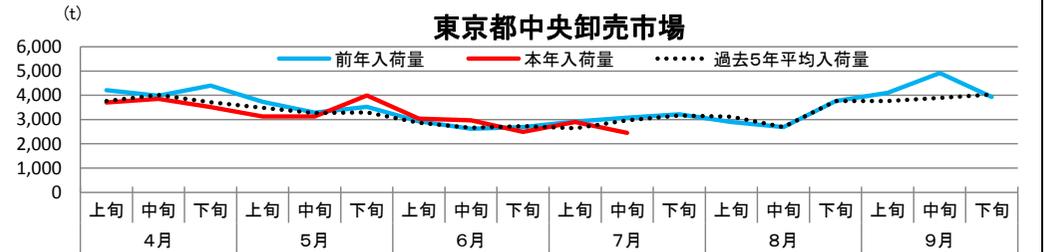
### 生産地の動向等

- 主な産地：北海道、青森、岐阜
  - 作付面積は、北海道及び岐阜は100%、青森は99%。
  - 生育状況は、北海道は、播種作業は順調に進んだ。現在、地区によっては低温・干ばつの影響でやや遅れがでているが、全体的には順調に生育している。青森は、春まき及び初夏まきともに順調に生育している。岐阜は、播種は残雪の影響でやや遅れたが、現在は順調に生育している。
  - 出荷開始は、北海道は6月下旬、青森は7月上旬、岐阜は6月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、降水量及び日照時間は、ほぼ平年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

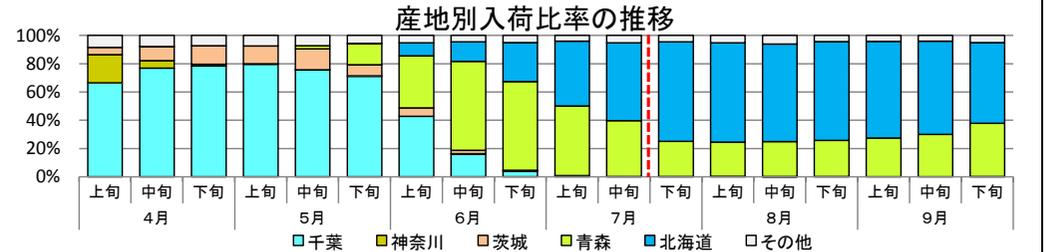
- 供給見通し
  - 出荷量は、北海道や青森県において、6月中旬から7月上旬の天候不順による干ばつなどの影響も懸念されるものの、期間を通じては安定した出荷が見込まれ、ほぼ前年並みの見込み。
- 需給・価格見通し
  - 価格は、期間を通して安定した出荷が見込まれることから、順調な入荷量があった前年並みの見込み。
  - 加工・業務用は、外食などから切りだいこんの注文が年々増加している。また、加工用需要が多くなってきているものの、本年は、加工向け産地の作付面積の減少や干ばつ等により生育が遅れている等から、産地において契約が進んでいない業者も一部にみられる。

### 入荷量の推移等

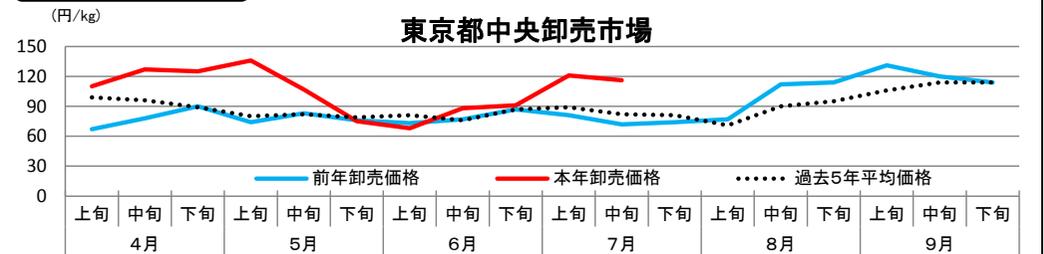


《今後の見通し》

	8月	9月
前年比	→	→



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月
前年比	→	→

### 3 たまねぎ（7～10月）

#### 生産地の動向等

- 主な産地：北海道、佐賀、兵庫

  - 作付面積は、北海道及び兵庫は100%、佐賀は99%。
  - 生育状況は、北海道の定植は平年に比べ早く終了し、その後、干ばつ傾向により生育が停滞したが、6月の降雨により回復し、生育は順調である。佐賀は、定植が12月の曇天の影響で遅れ、肥大期の干ばつにより小玉傾向の見込み。兵庫は、5月中旬までの干ばつにより小玉傾向となっている。
  - 出荷開始は、北海道は極早生種が8月上旬、佐賀は中生種が5月中旬、兵庫は中生種が5月下旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、降水量及び日照時間は、ほぼ平年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

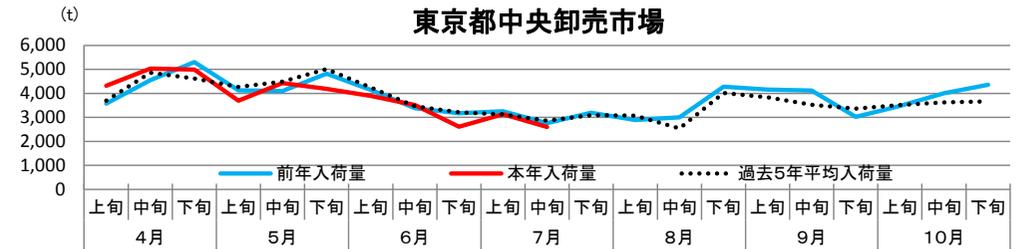
#### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し

  - 出荷量は、産地の切り替え時期となる中で、佐賀県産が小玉傾向の影響で早めの切り上げとなり、主力の北海道産が出始めて出荷量が見込まれるものの、8月は前年を下回る見込み。北海道産は9月以降、生育順調で本格的な出荷時期を迎え、9月は前年並み、10月は前年を上回る見込み。
- 需給・価格見通し

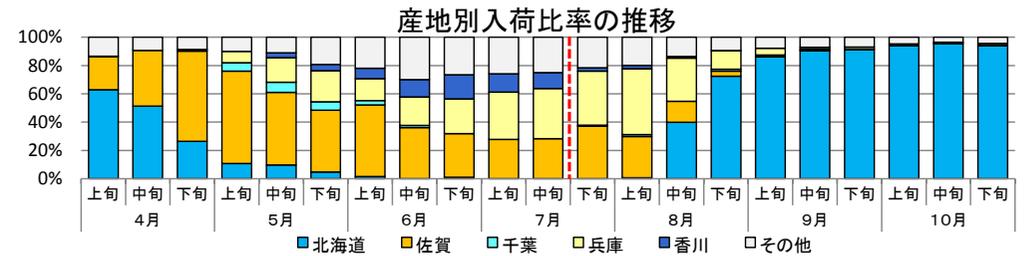
  - 価格は、8月は佐賀県産が大幅に少なくなることから前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月は安かった前年を上回る見込み。
  - 加工・業務用は、中国産の残留農薬問題や作付面積の減少、国内価格の上昇もあり、北海道産の生育が順調であれば、国産への切り替えニーズがあるものの、自ら剥き玉に加工できる業者は限られていることから、中国産のニーズは、引き続き堅調と考えられる。

#### 入荷量の推移等

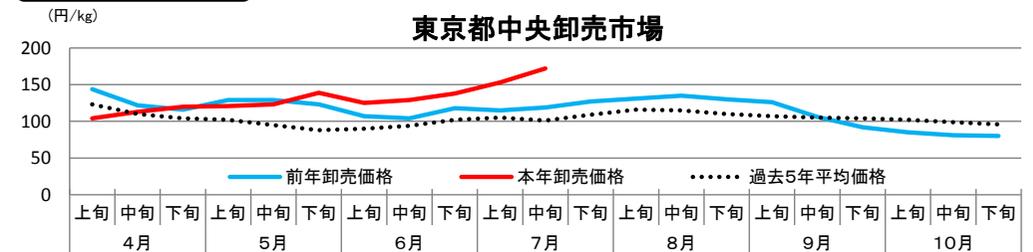


《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	→	→	↗



#### 価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↗	→	↗

## 4 秋にんじん（8～10月）

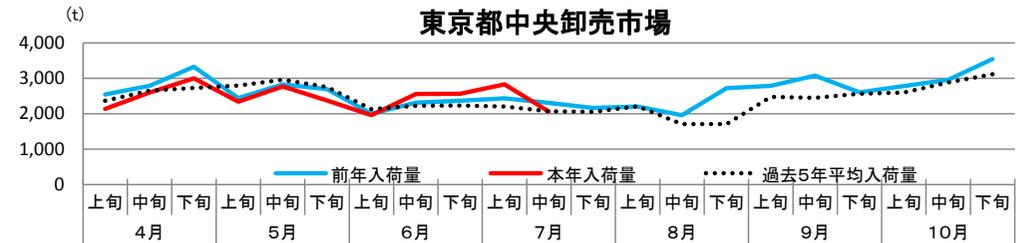
### 生産地の動向等

- 主な産地：北海道、青森
  - 作付面積は、北海道はホクレン101%、北商95%、青森は99%。
  - 生育状況は、北海道の播種作業は順調に進んだ。その後、干ばつの影響は多少あるが、全体的には順調に生育している。青森は、春まきの播種作業は順調に終了した。一部干ばつの影響で発芽不良のほ場がみられるも大きな影響はない。夏まきは、雨の影響で播種作業が遅れた地区もあるが、順調に生育している。
  - 出荷開始は、北海道は7月中旬、青森は7月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、降水量及び日照時間は、ほぼ前年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

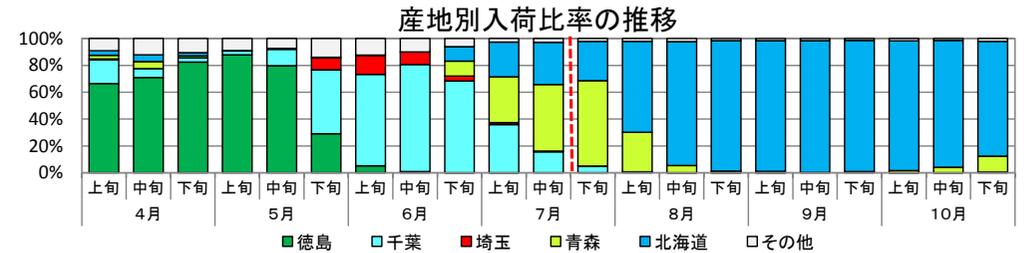
- 供給見通し
  - 出荷量は、8月は一部地域での天候不順により出荷の谷間ができる可能性があることから前年を下回り、9月以降は、順調な出荷が見込まれることから、ほぼ前年並みを見込む。
- 需給・価格見通し
  - 価格は、8月は干ばつの影響から出荷の谷間ができる可能性があることから、安かった前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月はかなり安かった前年を上回る見込み。
  - 加工・業務用は、中国産が東南アジアからの引き合いが強く、価格が上昇しているものの、現在の国内産は干ばつ等で細いサイズのものが多く、加工・業務用では使いづらい状況にあるが、北海道産の作柄次第では中国産にシフトする可能性がある。

### 入荷量の推移等

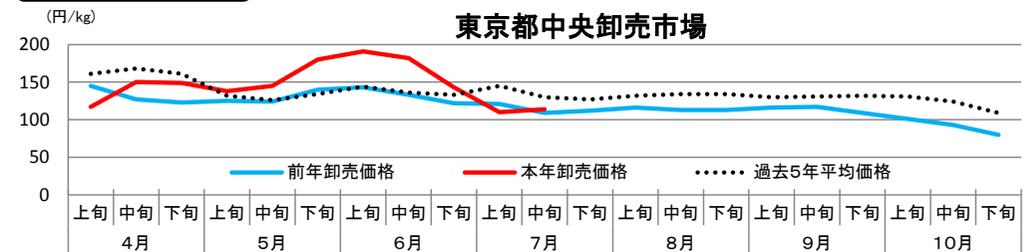


《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	→	→	→



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	↗	→	↗

## 5 夏はくさい（7～9月）

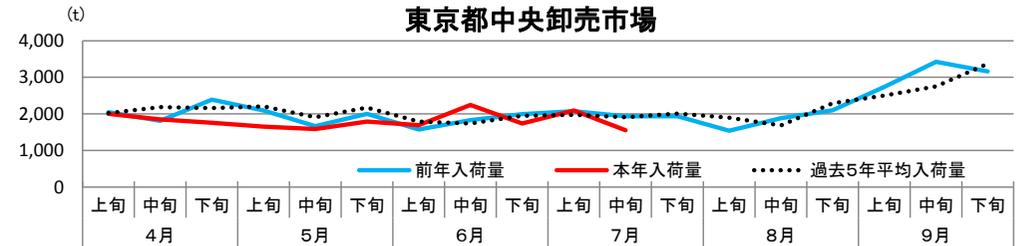
### 生産地の動向等

- 主な産地：長野、北海道、群馬
  - 作付面積は、長野は101%、北海道は98%、群馬は103%。
  - 生育状況は、長野は6月までの長雨で一部出荷ができないほ場があったが、全体では順調に生育している。北海道は、干ばつの影響で1週間程度遅れている。群馬は、順調に生育している。
  - 出荷開始は、長野は5月下旬、北海道は7月上旬、群馬は5月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、水量及び日照時間は、ほぼ平年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

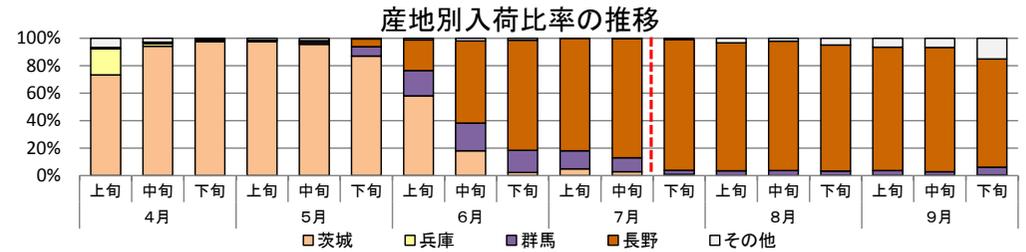
- 供給見通し
  - 出荷量は、主産地の長野県においては、6月までの長雨で一部出荷できないほ場もあったが、生育も回復して順調な出荷となることから、期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需給・価格見通し
  - 価格は、順調な出荷が見込まれることから、天候不順で肥大不足等の影響から高かった前年を下回る見込み。
  - 加工・業務用は、契約単価は上がっているものの契約量を増やしており、現在は、在庫量も十分確保されている状態である。また、秋以降の本格的な需要期を迎えるまでに契約率を上げていく業者が多くなっている。

### 入荷量の推移等

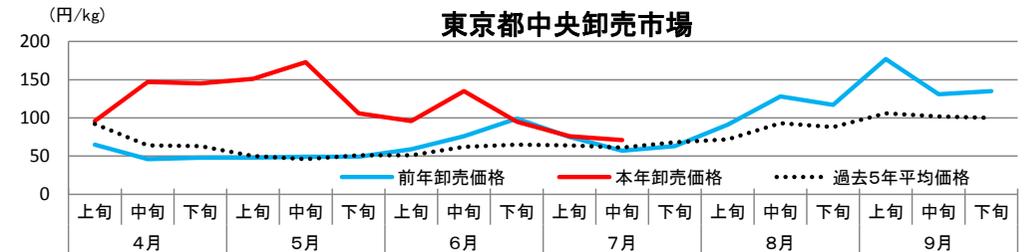


《今後の見通し》

	8月	9月
前年比	↗	↗



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月
前年比	↘	↘

## 6 夏秋レタス（6～10月）

### 生産地の動向等

- 主な産地：長野、群馬、茨城

  - 作付面積は、長野は101%、群馬及び茨城は100%。
  - 生育状況は、長野は、6月下旬の低温から生育が若干遅れている。7月以降の天候不順では場によりバラツキがみられる。群馬は、ほ場により高温や干ばつの影響がみられるものの、全体では順調に生育している。茨城は、8月上旬に播種が開始される見込み。
  - 出荷開始は、長野は6月中旬、群馬は4月中旬、茨城は10月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、降水量及び日照時間は、ほぼ平年並みと見込まれ、平均気温は、ほぼ高いと見込む。

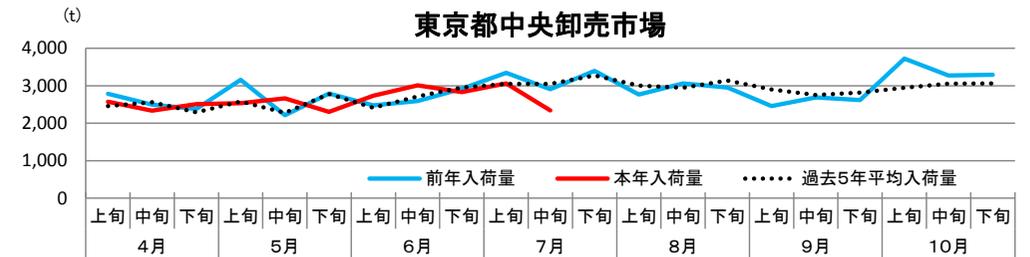
### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し

  - 出荷量は、8月は降雨、高温のため病気が発生していることもあり前年を下回る見込み。9月は低温等の影響で少なかった前年を上回り、10月は平年を大幅に上回った前年を下回る見込み。
- 需給・価格見通し

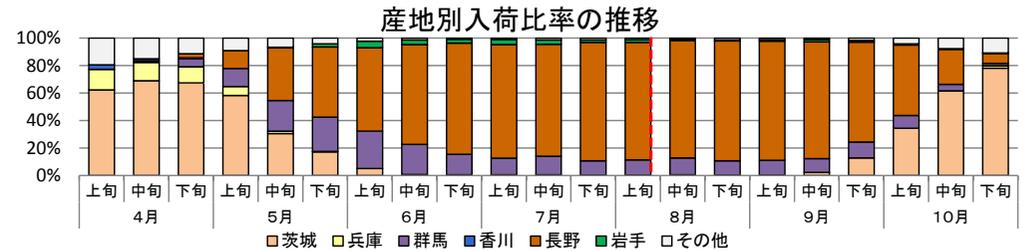
  - 価格は、8月は入荷が少なく高かった前年並み、9月は長雨等の影響で高かった前年を下回り、10月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回る見込み。
  - 加工・業務用は、外食チェーンを中心に、国産野菜を使用したサラダにシフトする動きがあることから、需要量が増加する可能性があるが、価格条件の面から米国産等を確保する業者もできる可能性がある。

### 入荷量の推移等

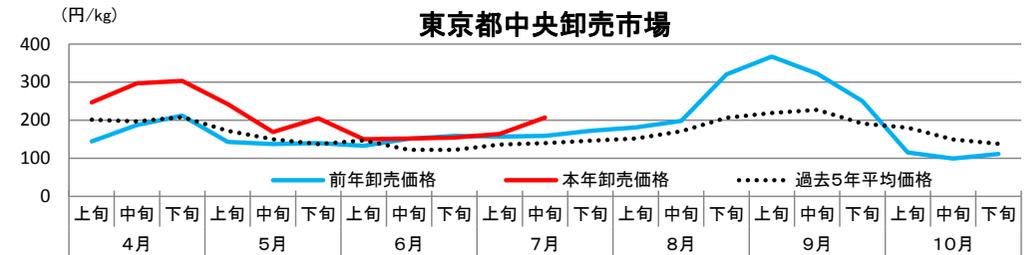


《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	→	↗	→



### 価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月	10月
前年比	→	↘	↗

## その他、夏秋野菜全体の消費の動向等

### ① 夏以降の消費を左右する要因、注目している要因

- ・ 経済状況により、消費者の財布の紐が固くなったり、緩んだりするなどその時の状況に応じた販売戦略を考える必要がある。最近では、株高や企業賞与のアップとの新聞報道もあり、付加価値の高い野菜へシフトする動きもみられる。

### ② 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・ ズッキーニが伸びており、積極的な販売に取り組んでいきたい。輸入品の取扱もあるが、国内産地の面積拡大や新規産地の開拓など、国産の供給強化を検討している。
- ・ 環境配慮型の野菜（長ねぎ、長なす等）の販売額が年々増加している。それ以外にも、れんこんやブロッコリーなども増加しており、一時的な供給不足も心配される。
- ・ 売れ筋商品としては、調理のしやすさや、珍しい野菜と考えている。

### ③ 野菜の物流を巡る情勢変化の影響とその対応

- ・ ドライバー不足の問題は常態化しており、モーダルシフトも運用面で課題が多く実態は進んでおらず、どのように解決すべきか対応に苦慮している。
- ・ 複数の産地の共同トラック物流に取り組み、経費増をかなり圧縮できている事例がある。ただし、複数産地を束ねるコーディネーターの不在等からなかなか進まない。
- ・ 北海道からの業務用野菜の物流は、札幌からは仙台や関東近郊までフェリー配送等のルートは確保されているが、現況は、道内産地から札幌までのトラック確保ができないケースもある。北東北3県（青森、秋田、岩手）も同様の事態が懸念される。

### ④ 最近の原油価格や労務費の動向等による野菜価格への影響

- ・ 最近、原油価格が再上昇しそうな兆しがあり、秋以降の施設栽培への影響が懸念される。
- ・ 大産地では外国人研修生の確保が必要であるが、最近、その確保が難しくなっていると聞いており、出荷数量が減少しないか心配である。

### ⑤ 震災や原発事故の影響による消費動向

- ・ 全体として消費者などからの問い合わせは少なくなっている。
- ・ 学校や保育園に対しては、放射線量検査の実施状況等を説明しながら納品していることもあり、福島県産はいらないという声はなくなってきている。
- ・ 原木しいたけ等も、毎月放射能検査を行う等の取組により売り上げは増加している。

### ⑥ その他

- ・ 外食・中食・居酒屋業界では、国産野菜に切り替えたい企業が増えている。
- ・ 簡便化志向もあり、例えばごぼうなどのアク抜きが必要で調理時間がかかる野菜の販売量が減少する傾向にある。